

科目名：解剖生理学 I	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 ( 1 5 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 中西 孝子	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体の構造を理解する。</li> <li>2. 各器官系統の持つ働きを理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体とはどのようなものか</li> <li>2. 細胞と構造、細胞を構成する物質とエネルギー生成</li> <li>3. }</li> <li>4. } 細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体</li> <li>5. }</li> <li>6. } 分化した細胞が作る組織</li> <li>7. 構造と機能から見た人体</li> <li>8. 筆記試験、まとめ</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>人体の構造と機能「1」解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>目で見るとからだのメカニズム 医学書院 、カラー人体解剖学「構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店</p>	
履修上の注意事項		

科目名：解剖生理学Ⅱ	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 ( 30 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 吉松 栄彦 久保川 利哉		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命現象の基本としての認識の上に呼吸循環の働きについて両者を関連づけて理解する。</li> <li>2. 体温の調節について理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1・2. 呼吸器の構造</li> <li>3・4. 呼吸</li> <li>5・6. 血液成分と機能・止血機構・血液型</li> <li>7. 試験・解説</li> <li>8・9. 循環器系の構造</li> <li>10. 11. 末梢循環器系の構造</li> <li>12. 13. 末梢循環器系の構造</li> <li>14. 15. リンパ管の循環と構造 筆記試験</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>人体の構造と機能「1」解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>目で見るとからだのメカニズム 医学書院、カラー人体解剖学「構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店</p>	
履修上の注意事項		

科目名：解剖生理学Ⅲ	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 ( 30 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 中西 孝子		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <p>1. 消化・吸収の仕組みについて理解する。</p>	
授業の計画	<p>1・2. 口腔の構造と機能、咀嚼の過程、咽頭・食道の構造と機能、嚥下の過程</p> <p>3・4. 胃の構造と機能／小腸の構造と機能</p> <p>5・6. 大腸の機能</p> <p>7・8. すい臓・肝臓・胆のうの構造と機能</p> <p>9・10. 腹膜</p> <p>11・12. 代謝</p> <p>13・14. 代謝</p> <p>15. 筆記試験、まとめ</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>人体の構造と機能「1」解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>目で見るとからだのメカニズム 医学書院、カラー人体解剖学「構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店</p>	
履修上の注意事項		

科目名：解剖生理学IV	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 ( 30 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 林 秀徳		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調節機能について理解する。</li> <li>2. 排泄の構造と機能について理解する。</li> <li>3. 性と生殖に関する機構について理解する。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1・2. 血液、生体防御機構</li> <li>3・4. 血液、生体防御機構</li> <li>5・6. 内部環境の恒常性</li> <li>7・8. 液性調節</li> <li>9・10. 液性調節</li> <li>11・12. 排泄の機構</li> <li>13・14. 性と生殖に関する機構</li> <li>15. 筆記試験、まとめ</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>人体の構造と機能「1」解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>目で見るとからだのメカニズム 医学書院、カラー人体解剖学「構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店</p>	
履修上の注意事項		

科目名：解剖生理学V	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期・後期
単位・時間： 1 単位 ( 30 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 久保川 利哉 ・甘井 努		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <p>1. 人体の活動を統合する働きを理解する。</p> <p>1) 中枢神経・末梢神経それぞれの構造と仕組みについて理解する。</p> <p>2) 骨格と筋がどのように配置され、どのように運動を行うのかを理解する。</p>	
授業の計画	<p>1. 神経系の構造機能</p> <p>2. 脊髄と脳</p> <p>3. } 4. } 脊髄神経と脳神経・ 5. }</p> <p>6. 脳と高次機能・運動機能と伝導路</p> <p>7. 国家試験問題とその解説</p> <p>8. 骨格と骨の連結</p> <p>9. 骨格筋</p> <p>10. 体幹の骨格と筋</p> <p>11. 上肢の骨格と筋</p> <p>12. 下肢の骨格と筋</p> <p>13. 頭頸部の骨格と筋・筋の収縮</p> <p>14. 国家試験問題とその解説</p> <p>15. 筆記試験、まとめ</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>人体の構造と機能「1」解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>目で見るとからだのメカニズム 医学書院、カラー人体解剖学「構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店</p>	
履修上の注意事項		

科目名：成長・発達・加齢の生理学	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 ( 1 5 時間)	授業の方法：講 義	
担当者：久保川 利哉		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 解剖生理 I～V で教授された身体の構造や各器官のもつ働きについて、成長・発達・老化による構造的、生理的機能の変化に着目する。 小児看護学や老年看護学の対象理解をスムーズにするための基礎となる。  1. こどもの発育に伴う各器官の生理学的、解剖学的特徴を理解する。  2. 高齢者の生理学的、解剖学的特徴を理解する。	
授業の計画	1. } 小児と成人の生理学的特徴の違い 2. } 新生児・小児の呼吸器・循環器の特徴、免疫特性等 3. } 小児の特徴的疾患の基礎知識 4. } 高齢者の生理的特徴 身体機能の加齢変化 5. } 老年症候群、フレイル、サイコペニア等 6. } 高齢者の多い疾患の基礎知識 7. }                                    " 8. } 筆記試験	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<b>【教科書】</b> 人体の構造と機能「1」解剖生理学 医学書院 e テキスト 小児看護学「2」小児臨床看護各論 医学書院 e テキスト 老年看護病態・疾患編 医学書院 e テキスト  <b>【参考文献】</b> 目で見るからだのメカニズム 医学書院 カラー人体解剖学「構造と機能：ミクロからマクロまで」 西村書店	
履修上の注意事項		

科目名：生化学	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期・後期
単位・時間： 1 単位（ 30 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 林 秀徳・天野 陽子		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 生命の基本単位としての細胞生体を構成している物質の種類や構造を理解することで生命現象を可能にしている生体内の化学変化を理解させておくことは臨床で検査値を理解する上で重要である。生化学を学ぶことで対象の病態を理解する基礎的知識を身につける。さらに日常看護で役立つ一般的な臨床検査の基礎知識を得ることで対象の観察から疾患の診断や治療回復を予測し、看護計画の良否を判断できる知識を身につける。 1. 人体の構成部分である化学物質の性状、その分布や代謝について理解する。 2. 臨床検査の基礎知識を理解する。	
授業の計画	- 1. について - 1. 生体の成り立ちと生体成分 2. たんぱく質の性質 3. 酵素のはたらき 4. 生体内における糖質の代謝 5. 生体内における脂質の代謝 6. 生体内におけるアミノ酸及びたんぱく質 7. 生体内における拡散の役割 8. 体液の生化学 9. ホルモン 10. ビタミン - 2. について - 11. 臨床検査の役割、臨床検査と看護師の役割、系統別検査の進め方 12. 一般検査、血液検査、化学検査 13. 免疫・血清検査、ホルモン検査 14. 微生物検査、病理検査、整理検査 ※検査材料の取り扱いと保存 (介助法含む) 15. 筆記試験、まとめ	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<b>【教科書】</b> わかりやすい生化学 ニューヴェルヒロカワ 系統的看護学講座 別巻「6」臨床検査 医学書院 e テキスト <b>【参考文献】</b>	
履修上の注意事項		

科目名：微生物学	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 ( 30 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 鈴木 達夫		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 感染症や伝染病の要因として、重要な位置を占めている病原微生物の分類や特徴、感染予防対策について理解する。感染症の治療における化学療法と病原体の薬剤耐性、薬物の副作用などに関する基礎的知識を習得する。また、各種化学療法剤の作用機序を理解する。現在多数の化学療法剤が感染症治療のために臨床応用されているが、なお、感染症は医学上解決すべき重要な課題のひとつである。そこで感染症の現状と問題点を把握し、感染症の予防対策についても理解を深める。 1. 微生物の感染により、生体に起こる影響を理解する。 2. 病原微生物の種類と特徴を理解する。 3. 感染予防に必要な基礎的知識が身につけられる。	
授業の計画	1. 感染症とは 2. 医療従事者の為の院内感染対策 3. 病原体の特性と免疫機能 4. 感染源・感染経路から見た感染症 5. 院内感染総論「発生要因と対策」 6. 消毒・滅菌各論 7. 感染症の予防 消毒と滅菌 手指試験 8. 食中毒について 9. 真菌及びその影響 10. 手指判定 レポート 11. 感染症の現状と対策 12. 免疫学 生体防御のしくみ 13. 免疫 病原体から体を守るしくみ 原虫・寄生虫・ダニ 14. ウイルス まとめ 15. 筆記試験、解説	
成績評価の方法・基準	出席回数、試験、およびレポート等により総合的に評価する。	
テキスト	<b>【教科書】</b> わかる！身につく！病原体・感染・免疫 南山堂 <b>【参考文献】</b> 戸田新細菌学 吉田眞一・柳雄介編（南山堂）、免疫学の入門 今西二郎著（金芳堂） シンプル微生物学 東匡伸・小熊恵二著（南江堂）	
履修上の注意事項		



科目名：疾病論 I	配当年次 1 年	開講時期 1 年後期
単位・時間： 1 単位 ( 1 5 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 三井 大輔		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b> 医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。</p> <p>対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。</p> <p>1. 疾病の原因や成り立ち、経過、転帰など疾病の本体を形態・機能の両面から総論的に理解する。</p>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病因論</li> <li>2. 病因論</li> <li>3. 先天異常</li> <li>4. 代謝障害</li> <li>5. 代謝障害</li> <li>6. 循環障害</li> <li>7. 炎症</li> <li>8. 筆記試験、ポイントまとめ</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b> 疾病の成り立ちと回復の促進「1」病理学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b> わかりやすい病理学 (廣川書店)</p>	
履修上の注意事項		



科目名：疾病論Ⅲ	配当年次 2年	開講時期 2年前期																																
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義																																	
担当者： 金指 桂子・野口 雄一																																		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>																																		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。</p> <p>対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。</p> <p>1. 消化器系、内分泌・代謝系、自己免疫疾患を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。</p>																																	
授業の計画	<table style="border: none;"> <tr> <td style="vertical-align: top;">1.</td> <td rowspan="9" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td>食道疾患</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>胃十二指腸潰瘍</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>大腸良性疾患</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>消化器系障害 大腸悪性疾患</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>肝疾患</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>肝疾患・胆のう疾患</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>急性膵炎・慢性膵炎・すい臓がん</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>まとめと復習、消化器疾患 Q&amp;A</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td rowspan="6" style="font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td>内分泌代謝障害 内分泌代謝・器官の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>自己免疫機能障害各論（各疾患の理解）</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>各論（各疾患の理解）</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>糖尿病</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>代謝疾患</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>人体防御機構</td> </tr> </table> <p>(筆記試験)</p>		1.	}	食道疾患	2.	胃十二指腸潰瘍	3.	大腸良性疾患	4.	消化器系障害 大腸悪性疾患	5.	肝疾患	6.	肝疾患・胆のう疾患	7.	急性膵炎・慢性膵炎・すい臓がん	8.	まとめと復習、消化器疾患 Q&A	9.		10.	}	内分泌代謝障害 内分泌代謝・器官の構造と機能	11.	自己免疫機能障害各論（各疾患の理解）	12.	各論（各疾患の理解）	13.	糖尿病	14.	代謝疾患	15.	人体防御機構
1.	}	食道疾患																																
2.		胃十二指腸潰瘍																																
3.		大腸良性疾患																																
4.		消化器系障害 大腸悪性疾患																																
5.		肝疾患																																
6.		肝疾患・胆のう疾患																																
7.		急性膵炎・慢性膵炎・すい臓がん																																
8.		まとめと復習、消化器疾患 Q&A																																
9.																																		
10.	}	内分泌代謝障害 内分泌代謝・器官の構造と機能																																
11.		自己免疫機能障害各論（各疾患の理解）																																
12.		各論（各疾患の理解）																																
13.		糖尿病																																
14.		代謝疾患																																
15.		人体防御機構																																
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%																																	
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>系統看護学講座 成人看護学「5」消化器 医学書院 e テキスト 「6」内分泌・代謝</p>																																	
履修上の注意事項																																		

科目名：疾病論Ⅳ	配当年次 2年	開講時期 2年前期																																	
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義																																		
担当者：井伊 京一郎・酒枝 和俊・石井 正明・飯田 雅文・加藤 雅也・立川 太一 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>																																			
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。 対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。 1. 脳神経系、運動器系に疾病を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。																																		
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td rowspan="7">}</td> <td>脳神経系の構造と機能・症状</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>症状とその病態生理</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>脳・脳神経機能障害</td> <td>症状とその病態生理</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>検査と治療</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>脳血管障害</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>疾患各論</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>疾患各論</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td rowspan="8">}</td> <td>ポイントまとめ・</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>骨の構造と組成、関節の構造と機能、神経と筋肉、腱と靭帯</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>各関節の変形、各部位の特有の疼痛</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>整形外科特有の診察方法と治療</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>手術療法、義肢装具、先天性疾患、骨折総論</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>脱臼総論・各論、炎症</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>骨系統疾患</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>脳性まひ、ポリオ、上下肢の疾患、脊椎疾患</td> </tr> </table> (筆記試験)		1.	}	脳神経系の構造と機能・症状	2.	症状とその病態生理	3.	脳・脳神経機能障害	症状とその病態生理	4.	検査と治療	5.	脳血管障害	6.	疾患各論	7.	疾患各論	8.	}	ポイントまとめ・	9.	骨の構造と組成、関節の構造と機能、神経と筋肉、腱と靭帯	10.	各関節の変形、各部位の特有の疼痛	11.	整形外科特有の診察方法と治療	12.	手術療法、義肢装具、先天性疾患、骨折総論	13.	脱臼総論・各論、炎症	14.	骨系統疾患	15.	脳性まひ、ポリオ、上下肢の疾患、脊椎疾患
1.	}	脳神経系の構造と機能・症状																																	
2.		症状とその病態生理																																	
3.		脳・脳神経機能障害	症状とその病態生理																																
4.		検査と治療																																	
5.		脳血管障害																																	
6.		疾患各論																																	
7.		疾患各論																																	
8.	}	ポイントまとめ・																																	
9.		骨の構造と組成、関節の構造と機能、神経と筋肉、腱と靭帯																																	
10.		各関節の変形、各部位の特有の疼痛																																	
11.		整形外科特有の診察方法と治療																																	
12.		手術療法、義肢装具、先天性疾患、骨折総論																																	
13.		脱臼総論・各論、炎症																																	
14.		骨系統疾患																																	
15.		脳性まひ、ポリオ、上下肢の疾患、脊椎疾患																																	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%																																		
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統看護学講座 成人看護学「7」脳・神経 医学書院 eテキスト 系統看護学講座 成人看護学「10」運動器 医学書院 eテキスト <b>【参考文献】</b>																																		
履修上の注意事項																																			

科目名：疾病論V	配当年次2年	開講時期 2年前期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 中村 倫之助・吉松 春彦・大野 常彰・高野 隆行・金子 玲子 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。 対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。 1. 腎・泌尿器系、女性生殖器系、感覚器系に疾病を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。	
授業の計画	1.    )                    症状・所見 2.    )                    症状・検査機器 X 検査方法・腎機能検査 3.    )                    先天奇形 4.    )                    先天奇形 腎・泌尿器 5.    )                    損傷・炎症 6.    )                    結石・異物 7.    )                    腫瘍 8.    )                    透析 9.    )                    解剖と総論 10.   )                   各論 11.   )                   各論 12.   )                   各論 女性生殖器 13.   )                   視機能の障害 14.   )                   感覚機能の障害聴機能の障害 15.   )                   知覚の障害 (筆記試験)	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統看護学講座 成人看護学「8」腎・泌尿器 医学書院 eテキスト 系統看護学講座 成人看護学「9」女性生殖器 医学書院 eテキスト 系統看護学講座 成人看護学「12」皮膚「13」眼「14」耳鼻咽喉 医学書院 <b>【参考文献】</b>	
履修上の注意事項		

科目名：薬理学	配当年次 1 年	開講時期 1 年後期		
単位・時間： 1 単位 ( 30 時間)	授業の方法：講 義			
担当者： 稲垣 昌博				
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>				
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b></p> <p>薬物治療における看護の役割について正しく理解する。そのために基礎薬理学、臨床薬理学を通じて化学物質と生体の相互作用を理解させることをねらいとする。</p> <p>そして代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理について学び、治療における患者への適切な教育指導、観察等の能力高めるとともに医療事故の防止的対応能力を身につける。</p> <p>1. 薬理作用の基礎知識に基づき、主な薬物の特徴、作用機序、人体の影響および薬物の管理について理解する。</p>			
授業の計画	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 薬理学総論  2. 薬理学総論  3. 末梢神経作用薬  4. 末梢神経作用薬  5. 中枢神経作用薬  6. 中枢神経作用薬  7. 抗炎症薬  8. 呼吸器系作用薬 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 9. 消化器系作用薬  10. ホルモン系・生殖系作用薬  11. 抗生物質  12. 消毒薬  13. 抗がん剤  14. 腎臓作用薬  15. まとめ、筆記試験 </td> </tr> </table>		1. 薬理学総論 2. 薬理学総論 3. 末梢神経作用薬 4. 末梢神経作用薬 5. 中枢神経作用薬 6. 中枢神経作用薬 7. 抗炎症薬 8. 呼吸器系作用薬	9. 消化器系作用薬 10. ホルモン系・生殖系作用薬 11. 抗生物質 12. 消毒薬 13. 抗がん剤 14. 腎臓作用薬 15. まとめ、筆記試験
1. 薬理学総論 2. 薬理学総論 3. 末梢神経作用薬 4. 末梢神経作用薬 5. 中枢神経作用薬 6. 中枢神経作用薬 7. 抗炎症薬 8. 呼吸器系作用薬	9. 消化器系作用薬 10. ホルモン系・生殖系作用薬 11. 抗生物質 12. 消毒薬 13. 抗がん剤 14. 腎臓作用薬 15. まとめ、筆記試験			
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%			
テキスト	<p><b>【教科書】</b></p> <p>疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕薬理学 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p>			
履修上の注意事項				

科目名：臨床薬理学	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間： 1単位（ 15時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 由良 明彦 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 薬物治療における看護の役割について正しく理解する。そのために基礎薬理学、臨床薬理学を通じて化学物質と生体の相互作用を理解させることをねらいとする。 そして代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理について学び、治療における患者への適切な教育指導、観察等の能力高めるとともに医療事故の防止的対応能力を身につける。 1. 薬理作用の基礎知識に基づき、主な薬物の特徴、作用機序、人体の影響および薬物の管理について理解する。 2. 実践的薬の使い方を習得する 1. 臨床につながる実用的な薬物治療について理解する。 2. 薬物治療における看護の役割と薬物管理と患者指導を理解する。	
授業の計画	1. 薬物治療の基礎 2. 対症療法薬の臨床薬理学 3.                    " 4. 主要疾患の臨床薬理学 5.                    " 6. 特定行為に関する臨床薬理学 7. 演習 薬物管理と患者指導 8. 筆記試験	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<b>【教科書】</b> 別巻 臨床薬理学 医学書院 eテキスト 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕薬理学 医学書院 eテキスト  <b>【参考文献】</b>	
履修上の注意事項		

科目名：診断治療論 I	配当年次 2 年	開講時期 2 年前期																																		
単位・時間： 1 単位 ( 30 時間)	授業の方法：講 義																																			
担当者：関根 勝・星原 政吉・伏原 豪司・平 豊文 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>																																				
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 看護は対象の健康回復にかかわる。疾病の診断治療におい放射線療法／手術療法・麻酔療法／心配蘇生法のそれぞれについて理解することで、その知識を看護を展開する上で活用する。  1. 疾病の回復を促進する各治療の原理を理解する。																																			
授業の計画	<table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td rowspan="4">} 臨床放射線医学</td> <td>放射線治療 IVR</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>X 線診断、CT</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>MRI、US、RI</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>演習 (フィルム読影) 小テスト</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td rowspan="6">} 手術療法・外科療法</td> <td>外科患者の病態の基礎</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>外科的治療(呼吸管理・体液栄養管理・輸血療法)</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>救急処置法の実際</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>麻酔法</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>外科的基本手技</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>感染管理</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td rowspan="4">} 医療機器</td> <td>救急看護の基礎 (トリアージ)</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>ME 機器概論</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>心電図関連</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>ME 機器</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td></td> <td>治療器</td> </tr> </table> (筆記試験)		1.	} 臨床放射線医学	放射線治療 IVR	2.	X 線診断、CT	3.	MRI、US、RI	4.	演習 (フィルム読影) 小テスト	5.	} 手術療法・外科療法	外科患者の病態の基礎	6.	外科的治療(呼吸管理・体液栄養管理・輸血療法)	7.	救急処置法の実際	8.	麻酔法	9.	外科的基本手技	10.	感染管理	11.	} 医療機器	救急看護の基礎 (トリアージ)	12.	ME 機器概論	13.	心電図関連	14.	ME 機器	15.		治療器
1.	} 臨床放射線医学	放射線治療 IVR																																		
2.		X 線診断、CT																																		
3.		MRI、US、RI																																		
4.		演習 (フィルム読影) 小テスト																																		
5.	} 手術療法・外科療法	外科患者の病態の基礎																																		
6.		外科的治療(呼吸管理・体液栄養管理・輸血療法)																																		
7.		救急処置法の実際																																		
8.		麻酔法																																		
9.		外科的基本手技																																		
10.		感染管理																																		
11.	} 医療機器	救急看護の基礎 (トリアージ)																																		
12.		ME 機器概論																																		
13.		心電図関連																																		
14.		ME 機器																																		
15.		治療器																																		
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%																																			
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統看護学講座別巻 1 「臨床外科総論」医学書院 e テキスト 系統看護学講座別巻 6 「臨床検査」医学書院 e テキスト 医療機器 配布資料 <b>【参考文献】</b>																																			
履修上の注意事項																																				



科目名：診断治療論Ⅱ	配当年次 1 年	開講時期 1 年後期
単位・時間： 1 単位（ 30 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 坂本 香織・森田 靖章		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 看護は対象の健康回復にかかわる。疾病の診断治療において栄養の意義と病態栄養／リハビリテーションのそれぞれについて理解することで、その知識を看護を展開する上で活用する。 1. 健康にとっての栄養の意義と病態栄養について理解する。 2. リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術を学ぶ。	
授業の計画	1 について 1. QOL と食生活 2. ライフサイクルと栄養 3. 食べる行動から始まる栄養 4. 何を食べたらよいのか 5. 何を食べたらよいのか 6. ライフステージと食生活 7. 栄養と運動 8. 疾病時の栄養方法・食事療法 9. 対象者に合わせた食事選択（演習） 10. 対象者に合わせた食事選択（演習） 11. 成人期の疾病の特徴と食 12. 老年期の疾病の特徴と食 2 について 13. リハビリテーション概論 14. 運動器系の障害とリハビリテーション 15. 中枢神経系の障害とリハビリテーション（筆記試験）	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100% また調理実習の取り組みについて加算評価する。	
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 e テキスト 系統看護学講座別巻 3 「リハビリテーション看護」医学書院 e テキスト <b>【参考文献】</b>	
履修上の注意事項		

科目名：地域医療論	配当年次 1 年	開講時期 1 年後期
単位・時間： 1 単位（ 1 5 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 川口 茂・小川 越史		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b> 当校は地域医療に貢献できる看護実践者の育成を目指している。ここでは、公衆衛生学・社会福祉の知識をもとに保健医療のあり方について課題を明確にしたうえで、当地区における生活者の実態を把握し、健康課題を明確にするとともに地域医療連携についての課題と展望を考察し、地域医療に貢献する医療職として役割を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 当地域における健康課題がわかる。</li> <li>2. 医療保健福祉介護に関する経済的政策的課題が理解できる。</li> <li>3. 地域医療を担う看護職としての必要な資質について自覚し自己の課題を明確にできる。</li> </ol>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健医療のあり方（医学史・地域医療体制の現状）</li> <li>2. 保険医療についての課題</li> <li>3. 医療上の問題点、医の倫理</li> <li>4. 在宅医療と介護の動向 （地域包括ケアシステムの構築と埼玉県坂戸市における必要性）</li> <li>5. 地域医療推進連携事業の実際</li> <li>6. 地域医療推進連携事業の実際</li> <li>7. 地域医療推進連携事業の実際</li> <li>8. 筆記試験、まとめ</li> </ol>	
成績評価の方法・基準	筆記試験および課題レポートから総合的に評価する。	
テキスト	<p><b>【教科書】</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 医学書院 e テキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p>	
履修上の注意事項		

科目名：公衆衛生	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 ( 1 5 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 岡崎 英規		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b> 公衆衛生や保健活動など、疾病予防と人々の健康を保持増進させていくための具体的内容を学ぶ学問である。 環境生成の改善が公衆衛生の本質であり、健康は一人で守れないという視点で人々の健康について考える。</p> <p>1. 公衆衛生に関連する統計情報・組織的保健活動について理解する。</p>	
授業の計画	<p>1. 公衆衛生の概念と歴史 2. 環境と健康、公害 3. 保健、衛生統計の見方 4. 医療の動向と医療保障、母子保健 5. 感染症対策、学校管理 6. 産業保健 7. 難病保健、精神保健、地域保健 8. まとめ、筆記試験</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b> 系統的看護学講座 健康支援と社会保障制度「2」公衆衛生学 医学書院 e テキスト 国民衛生の動向 厚生統計協会</p> <p><b>【参考文献】</b></p>	
履修上の注意事項		

科目名：社会福祉Ⅰ・Ⅱ	配当年次 3年	開講時期 3年前期 3年後期
単位・時間： 2単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 荒川 悟		
実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<b>【講義内容】</b> 看護活動において対象の健康問題に関連した社会的支援システムを理解し、保険・医療・福祉サービスが連携を持って援助するようにしたい。そのためには社会保障、福祉制度を理解するとともに、そこで働く職種と役割を理解するとともに、その一員としての役割を果たすことのできる能力を養う。 1. 社会福祉の理念と変遷を理解する。 2. 社会福祉の制度および援助方法を学ぶ。 3. 社会保障制度について理解する。	
授業の計画	1. 社会福祉の基本的性格 2. 生活問題の展開と社会・福祉の基本動向 3. 社会保障制度と社会福祉制度 4. 社会福祉サービス、社会福祉の法制度、社会の組織と管理、医療保険 5. 社会保険制度 6. 介護保険制度 7. 介護保険制度（事例） 8. 筆記試験、解説 1. 老人福祉 2. 介護保険 3. 障害者福祉 4. 児童福祉、母子保健、生活保護 5. 生活保護 6. 社会福祉実践の基礎基盤 7. まとめ、連携をめぐる課題 ケアリング、ターミナルケア 8. 筆記試験、解説	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<b>【教科書】</b> 系統的看護学講座 健康支援と社会保障制度 「3」 社会保障・社会福祉 医学書院 e テキスト <b>【参考文献】</b>	
履修上の注意事項		

科目名：関係法規Ⅰ・Ⅱ	配当年次 3年	開講時期 3年前期 3年後期
単位・時間：2単位（30時間）	授業の方法：講義	
担当者：林 真由美 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>		
授業概要 目的・到達目標	<p><b>【講義内容】</b>          医事法の理念を理解するとともに、健康の保持増進とこれにかかわる人々に関する法律を知ることにより看護の果たす役割を考える。また、医療におけるトピックスを取り上げ社会的価値判断と法的解釈のありようを解説することで、看護の果たす法的責任について考えることができる。ここでは法規に全体的解釈と単に知識としてではなく日常生活や事例を通していっそうの理解を深めるようにする。</p> <p>1. 看護師として必要な医事法の知識を理解する          2. 医療事故や医療過誤を予防するための基礎知識を習得する。</p>	
授業の計画	<p>1・2. 法規の概念          3・4. 保健師助産師看護師法、医事法規          5・6. 医事法規、保健衛生法規          7. 保健衛生法規          8. 試験、ポイント整理</p> <p>1・2. 福祉関係法規          3・4. その他の関係法規、医療におけるトピックス          5・6. 演習          7. 医療におけるトピックスと法的解釈          8. 試験、ポイント整理</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p><b>【教科書】</b>          系統的看護学講座 健康支援と社会保障制度「4」看護関係法令 医学書院 eテキスト</p> <p><b>【参考文献】</b></p>	
履修上の注意事項		

